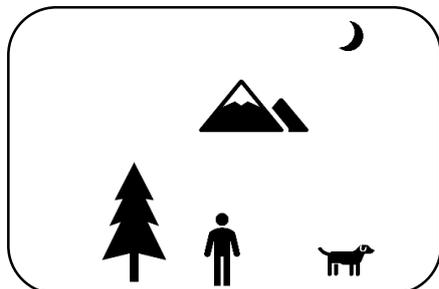


## W-2-1

### 属性の起源

三原健一（京都ノートルダム女子大学客員教授）

#### 1. はじめに



探索：知覚の成立に必要な認知者の能動的な活動

本発表の主張

- ① 属性叙述受動文の表す属性はアフォーダンスに対する最適解である。
- ② 属性の発生には潜在的認知者の総称化が必要である。
- ③ 属性はメトニミー（換喩）によって主題に照射される。

#### 2. 属性叙述受動文

昇格受動文の2分類（益岡 1982=1987）

- (1) a. 哲也は、自堕落な生活態度のことで父親に殴られた。（受影受動文）
- b. 村井三郎は、非常な読書家としてよく知られている。（属性叙述受動文）

受影受動文：主語が心理的あるいは物理的影響を受ける受動文

属性叙述受動文：主語（主題）の属性を叙述する受動文

無生物主語の受影受動文 → 潜在的受影者

- (2) a. あの絵が子供に引き裂かれた。
- b. 翌年、その寺が信長に焼き払われた。（益岡 1991: 197）

天野(2002)：属性叙述受動文にも潜在的受影者はあり得る（→「あの街の住民」）

和栗(2005)：潜在・顕在にかかわらず受影者が認められるものは受影受動文である

（→属性叙述受動文=受影者とは無関係に属性を叙述するもの）

- (3) a. あの街は、よく暴走族にめちゃくちゃにされている。（天野 2002: 34）
- b. 三上山は、手頃なハイキングコースとして多くの市民に親しまれている。（和栗 2005: 164）

潜在的認知者（implicit sentient）（三原 2017, cf. Tenny 2006）

- (4) a. あの街は、よく暴走族にめちゃくちゃにされている。（潜在的受影者）
- b. この雑誌は、10代の若者によく読まれている。（潜在的観察者）
- c. 当時は、いわゆる「フォークソング」がよく歌われていた。（潜在的経験者）
- d. 三上山は、手頃なハイキングコースとして多くの市民に親しまれている。（潜在的観察者）

## 属性叙述受動文の成立

アフォーダンス (affordance) : 事物が環境の中で認知者に対して持つ意味 (cf. 本多 1995: 56)

「事物」には「人間」も含む

「意味」= 事物が認知者に供する「行為の可能性」(e.g. 「椅子」→「座る」という行為)

(5) この雑誌は、10代の若者によく読まれている。(益岡 1987: 189)

a. 属性叙述受動文成立の前提条件

主題「この雑誌」は、百科事典的知識を基にする幾つかの行為の可能性(「読む/定期購読する/収集の対象とする」など)を有し、その可能性は動詞の意味から読み取れるものでなければならない。

b. 最適なアフォーダンスの選択

潜在的認知者は、行為の可能性のうち、その属性叙述受動文が話題になっている環境(文脈)の中で、最適解(optimal solution)と捉えるアフォーダンス「よく読まれる」を選択する。(無標の状況では、最も「典型的」な行為が最適解となるだろう。)

c. 認知者の総称化

d. 属性付与

潜在的認知者は、そのアフォーダンス「よく読まれる」を、属性として主題「この雑誌」に照射する。

☞ 「属性叙述受動文の表す属性はアフォーダンスに対する最適解である」

(6) a. 熊野古道は、平安朝の昔から多くの修験僧に歩かれている。(道→歩く)

b. エビスビールは、比較的、収入の多い人に飲まれているようだ。(ビール→飲む)

c. ビリー・ホリデイは、多くのジャズファンに愛されている。(ジャズ歌手→ファンだ)

d. 草間彌生は、水玉模様の前衛芸術で知られている。(草間彌生→芸術家だ)

### 明示化すべき事項

(A) 認知者の総称化

(B) 属性付与のメカニズム

## 3. 属性付与

### (A) 認知者の総称化

(7) この沢の水は甘い。(認知者による発話 → 一時的状態)

(8) a. この沢の水は、今日は甘い。(時副詞)

b. この沢の水は、私には甘い。君はどう？(経験者)

観察点の公共性 → 知覚の公共性 (本多 1995: 第2章)

認知者の総称化 → 属性の発生



#### [補足] 属性と一時的状態

属性 : 事物の有する「特性の束」から探索によって1つを抽出するところから始まる。

「は」は「主題」解釈となる。

一時的状態 : 最初から「1つの特性」のみを表す。

「は」を用いる場合「対照」解釈となる。

属性化すると「メトニミー拡張」が可能になる (cf. 澤田 2008)

(12) a. このレストランの料理はおいしい。 → このレストランはおいしい。

b. ベルリンフィルの演奏は重厚だ。 → ベルリンフィルは重厚だ。

#### 4. 結論

- ① 属性叙述受動文の表す属性はアフォーダンスに対する最適解である。
- ② 属性の発生には潜在的認知者の総称化が必要である。
- ③ 属性はメトニミー（換喩）によって主題に照射される。

#### 参考文献

天野みどり(2002)『文の理解と意味の創造』(笠間書院)

佐藤信夫(1978)『レトリック感覚』(講談社学術文庫)

澤田浩子(2008)「味覚・嗅覚・聴覚に関する事象と属性」影山太郎(編)『属性叙述の世界』(くろしお出版)

谷ロー美(2003)『認知意味論の新展開—メタファーとメトニミー—』(研究社出版)

西尾寅弥(1972)『形容詞の意味・用法の記述的研究』(秀英出版)

本多啓(2005)『アフォーダンスの認知意味論—生態心理学から見た文法現象—』(東京大学出版会)

益岡隆志(1982)「受動文の意味分析」『言語研究』第 82 号

益岡隆志(1987)『命題の文法—日本語文法序説—』(くろしお出版)

益岡隆志(1991)『モダリティの文法』(くろしお出版)

三原健一(2017)「属性叙述受動文の描く世界」日本言語学会第 155 回大会 (2017 年 11 月, 於立命館大学)

における口頭発表 [京都ノートルダム女子大学『研究紀要』第 49 号 (印刷中)]

八亀裕美(2008)「評価を絞り込む形式」影山太郎(編)『属性叙述の世界』(くろしお出版)

八亀裕美(2012)『日本語形容詞の記述的研究—類型論的視点から—』(明治書院)

和栗夏海(2005)「属性叙述受動文の本質」『日本語文法』5 卷 2 号

Kövecses, Zoltán and Günter Radden (1998) Metonymy: Developing a Cognitive Linguistic View. *Cognitive Linguistics* 9(1)

Tenny, Carol L. (2006) Evidentiality, Experiencers, and the Syntax of Sentience in Japanese. *Journal of East Asian Linguistics* 15(3)